

奈良公園の水環境改善の取組みの一環として、
猿沢池への導水実証実験を行います！！

- 奈良公園内の猿沢池や鷺池は、多くの観光客等が訪れる場所ですが、流入水量が少なく滞留時間が長いことや、降雨時に鹿の糞尿混じりの水が流入することにより、夏場を中心に濁りやアオコが発生するなど、水質が悪化しています。
- このため、昨年度に奈良公園の水環境改善計画を立案し、各般の取組みに着手しています。
- 猿沢池では、新しく水路を整備し奈良国立博物館の井戸水を導水することで、水質改善を図る予定です。
- これに先立ち、導水実証実験を9月30日より開始します。

＜導水実証実験の内容＞

- ・ 実証実験を行うため、春日大社一の鳥居付近に仮設ポンプと仮設導水管を設置し、奈良国立博物館の井戸から排出される最大3リットル/秒の水量を猿沢池へ流入させます。
- ・ 水質調査期間は、9月30日から約2ヶ月を予定。
- ・ 猿沢池への流入水の増加量に応じた水質改善状況（窒素やリン等の数値変化、透明度等）を調べ、来年度から予定している本格運用に活かします。

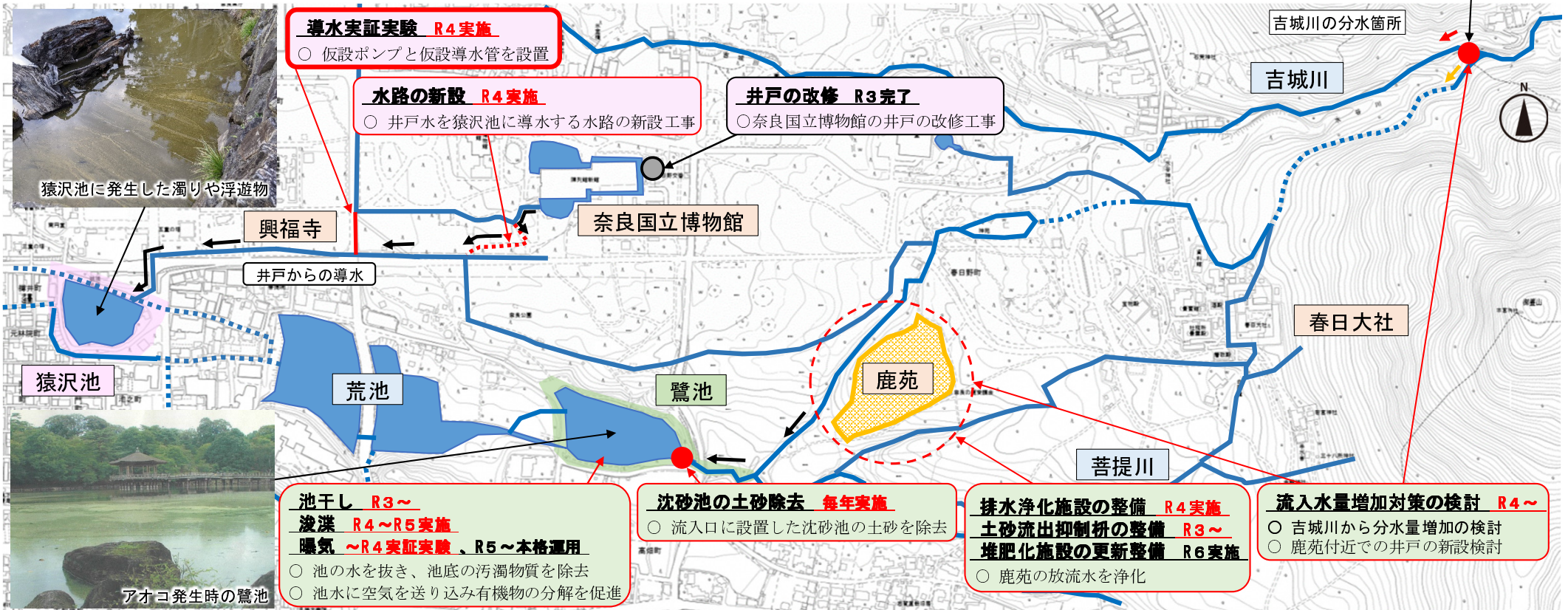
奈良公園の水環境改善計画

○ 計画の概要

【 猿沢池における取組み 】

■ 流入水量増加対策：奈良国立博物館南側に水路を新設し、猿沢池への導水経路を確保することで、奈良国立博物館の井戸水を猿沢池に流入させます。

水路新設工事に先立ち、仮設ルートで猿沢池に導水する実証実験を行い、流入水量を増加させることによる効果を検証します。(導水実証実験の概要は次ページを参照)



【 鷺池における取組み 】

■ 底泥へドロ化対策：池内のドロ化した汚泥は、分解や除去が有効と考えられるため、鷺池の池干し、堆積汚泥の浚渫、曝気を実施します。

■ 鹿苑の放流水対策：鹿苑から鹿の糞尿混じりの水がそのまま放流されるのを防ぐため、鹿苑敷地内に排水浄化施設と土砂流出抑制柵を整備すると共に、堆肥化施設の更新整備により糞の堆肥化を促進することで、下流の汚濁負荷を軽減します。鷺池流入口にある沈砂池の土砂除去を実施します。

■ 流入水量増加対策：池水の滞留時間を短くするため、上流からの分水量増加や井戸水くみ上げ等による、流入水量増加対策を検討しています。

猿沢池 導水実証実験

(1) 実験目的

猿沢池の水が約2週間で入れ替わるよう、流入水量を増加させ、滞留時間の短縮を図ることで、池の水質改善状況を調査します。

(2) 実験内容

① 流入水量の設定

奈良国立博物館敷地内の井戸から排出される最大3リットル/秒※の水量を流入水量とします。

② 実証実験用導水経路

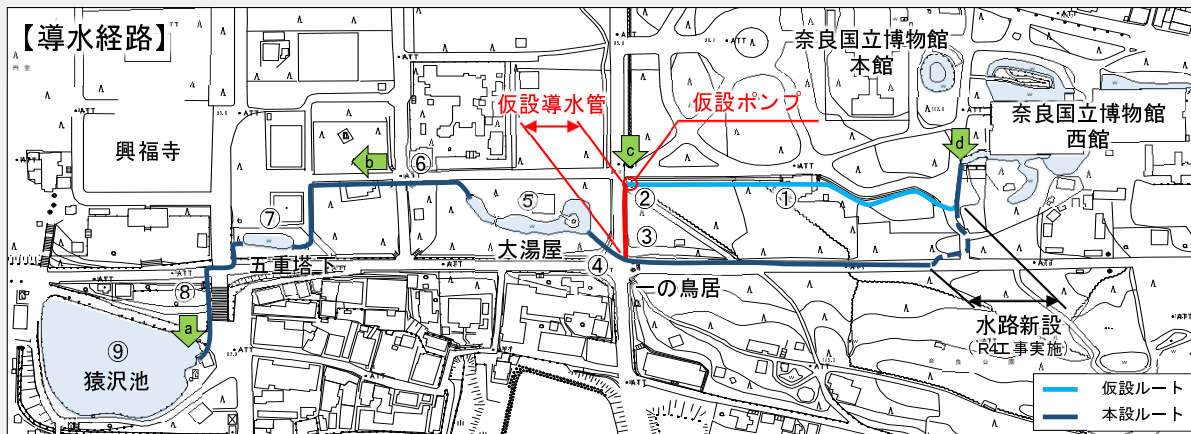
春日大社一の鳥居付近に実験用の仮設ポンプと仮設導水管を設置し、奈良国立博物館の井戸水を猿沢池へ流入させます。

③ 水質調査期間

9月30日から約2ヶ月を予定。

④ 調査内容

猿沢池の流入水の増加量に応じた水質改善状況（窒素やリン等の数値変化、透明度等）を調べ、来年度からの本格運用に活かします。



※ 流入水量 : 3リットル/秒 ⇒ 約250m³/日
猿沢池の容積 : 約4000m³
滞留日数 : 4000/250 = 約16日
よって、約16日で猿沢池の水が入れ替わることとなります。

